

群馬県立女子大学 教育研究業績一覧（令和7年度分）

国文学科

【著書】

- 新井小枝子：共著 『語用論的方言学の始動』 「養蚕語彙を用いた比喻表現の談話機能－群馬県藤岡市方言を中心に」 ひつじ書房 令和7年11月
- 板野みづえ：共著 和歌文学大系36『新古今和歌集』明治書院 2025年7月（担当範囲：恋一）
- 井上一之：共著 『古典探求―漢文関連教材をめぐる実践と研究』学文社・早稲田教育叢書44、「高校国語の漢文教材としての『桃花源記』」 令和7年3月
- 二村博：単著 『近世会津俳人來翰集』朝日印刷工業 令和8年3月

【論文】

- 新井小枝子：単著 「上州弁としての養蚕ことば」『日本絹の里紀要』第28号 令和8年3月 単著 「要地方言の活用体系記述 栃木県さくら市方言」『全国方言文法辞典資料集活用体系』方言文法研究会編 令和8年3月
- 板野みづえ：単著 「『六百番歌合』注解稿（二） 恋一・「忍恋」」『群馬県立女子大学国文学研究』第46号 2026年3月
- 市川祥子：単著 「『山海評判記』における歌舞伎の引用をめぐる」 「群馬県立女子大学国文学研究」第46号 令和8年3月 単著 「『白鷺』の上演をめぐる―昭和一四年（一九三九）上演と泉鏡花―」 「群馬県立女子大学紀要」第47号 令和8年2月 単著 「『山海評判記』論―新聞連載の側面から―」 「文学・語学」第245号 令和7年12月
- 井上一之：単著 「陶淵明の家系」早稲田大学『中国文学研究』第五十一期 令和8年3月 単著 「陶淵明の名字」『群馬県立女子大学紀要』第47号 令和8年2月 単著 「『遠人の村』―陶淵明「歸園田居」小考」『中国詩文論叢』第四十四集 令和7年12月
- 佐藤洋美：単著 「台盤所の光源氏―『源氏物語』「末摘花」巻における大輔命婦を介した手紙の位相―」『群馬県立女子大学国文学研究』第46号 令和8年3月
- 鈴木崇大：「赤人の鶯の歌二首」鉄野昌弘ほか編『古代文学研究の現在』青簡舎 令和7年12月 分担
- 富岡宏太：単著 「古代語の内省判断という陥穽―『源氏物語』紅葉賀巻における「命長くも」―」『群馬県立女子大学国文学研究』第46号 令和8年3月

二村博：単著 「曾良の婚家」 『群馬県立女子大学国文学研究』第46号 令和8年3月

【訳書・教科書・書評等】

市川祥子：日本近代文学会 評議委員 令和6年4月～令和8年3月

井上一之：共編 『新選 中國詩文』 東方書店 令和8年3月 共訳 『『菁莪堂集』全訳注稿(4)』 『群馬県立女子大学紀要』第47号 令和8年2月 随筆 『全漢詩連会報』(全日本漢詩連盟)第75号 「漢詩の周辺―「痴の美」」 令和8年1月

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

井上一之：令和7年7月 「漢詩の発想」 富岡漢詩会

佐藤洋美：単独 「台盤所の光源氏―『源氏物語』「末摘花」巻における末摘花への文をめぐって―」 歴史物語研究会6月例会 令和7年6月(オンライン開催)

鈴木崇大：令和7年8月 和洋-昌原合同国際シンポジウム「日本文学・日本語学・地域文化研究の現在地」 パネリスト

二村博：令和8年3月 「伊勢崎市・本庄市・深谷市 俳諧の交流をさぐる講演会」NPO 法人境いきいきアイ主催・伊勢崎市教育委員会後援「句集『萩のふすま』編集に貢献した栗庵似鳩と本庄に滞在した常世田長翠の交流」

宮内洋：令和8年1月16日講演 「質的研究の魅力を沖縄でのフィールドワークから考える」 相模女子大学人間社会学部人間心理学科講演会(相模女子大学)

英 米 文 化 学 科

【著 書】

浅井良策：共著 『レキシコン研究の広がりと深まり』(眞野美穂・江口清子・小薬哲哉・于一楽(編))「第19章 英語結果構文から見た「様態」と「結果」」 大阪大学出版会 令和7年6月

松崎慎也：共著 『環境と文学の彼方に―エコクリティシズムと新しい創造の時代』 彩流社 令和7年3月

【論 文】

浅井良策：単著 「英語結果構文に認められる「間接使役性」」『日本認知言語学会論文集』第26巻 令和8年3月刊行予定

飯村英樹：共著 Examining the Practicality of Oral Reading Assessment: A Comparison of a Rubric and a Rubric-Based, Binary-Choice, Boundary-Definition (RBB) Scale 全国英語教育学会, *JASELE Journal*, 37, 161-176. 令和8年3月

木下耕介：単著 「情報文化における物語叙述 —1980年代のアメリカ映画、コンピューター・ゲーム、そしてテレビにおけるデータ・ストーリーテリングの共進化—」『群馬県立女子大学紀要』第47号 令和8年2月

小林徹：単著 「ザ・ビートルズ—その芸術性をめぐる問い—」『群馬県立女子大学紀要』第47号（群馬県立女子大学、令和8年2月）：55-71

渡辺典子：単著 「学びの場の展開—自由大学研究の関わりで—」『自由大学運動 100周年記念東京集会論叢』編集委員会『民衆の感じる痛みに応えようとして生まれた自由大学 自由大学運動 100周年記念東京集会論叢』合評会報告書 2025年7月

【訳書・教科書・書評等】

飯村英樹：寄稿（単著） 「第5章スピーキング第2節 音読の指導と評価」（pp. 152-155）『英語教育学の今—理論と実践の統合—』（全国英語教育学会第50回研究大会記念特別誌） 令和7年8月

笠井俊和：『西洋史学』（日本西洋史学会）編集委員 令和6年4月～

小林隆：日本認知言語学会 論文集・予稿集編集委員会委員 令和4年～

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

浅井良策：令和7年9月 「動詞に「語彙化された」意味要素と結果句の意味・機能の相互作用に関する一考察」 2025年度第3回大阪認知言語学研究会（於：大阪大学） 令和7年8月 「英語結果構文に認められる「間接使役性」」 日本認知言語学会 第26回全国大会（於：早稲田大学）

飯村英樹：令和7年・12月 「背景音がリスニングに与える影響：日本語、英語、アラビア語の比較」 第53回九州英語教育学会大分研究大会・大分大学 令和7年・8月 「音読用評価尺度の実用性検証：ループリックに基づく二値選択・境界定義（RBB）尺度」（共同研究）全国英語教育学会第50回埼玉研究大会・獨協大学

笠井俊和：令和7年4月 【新刊紹介】菅（七戸）美弥・北村新三著『南北戦争を戦った日本人——幕末の環太平洋移民史』（筑摩書房、2023年）『アメリカ学会会報』No. 217

木下耕介：令和7年10月18、19日 日本演劇学会研究集会（於：芸術文化観光専門職大学） 企画運営委員会・理事として参加 令和7年6月21、22日 日本演劇学会全国大会（於：広島大学） 企画運営委員会・理事として参加

小林隆：令和7年9月 「環境言語学：環境ナラティブにおけるメタファーとフレーム」 大阪認知言語学研究会（グロスマン・バリー氏との共同発表、第二発表者） 令和7年9月 「談話標識 I mean の語用論・認知言語学的分析」 大阪認知言語学研究会 令和7年7月 “English Demonstrative Pronouns Referring to Proximal Entities: A Cognitive Linguistic Approach” International Cognitive Linguistics Conference 17

【その他】

渡辺典子：単著 「年表－2024年」日本婦人団体連合会『女性白書2025』出版芸術社 令和7年8月

美学美術史学科

【著書】

三宅秀和：共著 熊倉功夫編『茶書古典集成8 織部・三斎・有楽の茶書』淡交社 令和7年10月（担当箇所：「数寄聞書」（翻刻・注釈・解題）275～366頁）

武藤大祐：共編著 『現代ストリップ入門』 書肆侃侃房 令和7年10月

【論文】

奥西麻由子：単著 「地方の公立文化センターと大学の連携事業における一考察 ―玉村町文化センターでの4年間の取り組みを通して」（活動報告）『アートマネジメント研究』第26号 令和8年3月（発刊予定）

三宅秀和：単著 「作者不詳《源氏物語図屏風》」『MUSE』9号 令和8年3月（予定）

【訳書・教科書・書評等】

奥西麻由子：令和5年8月～現在 環境芸術学会 学会誌編集委員

武藤大祐：令和7年12月 「垣沼絢子著『近代日本の身体統制：宝塚歌劇・東宝レビュー・ヌード』」 『舞踊學』第48号

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

奥西麻由子：令和7年8月 「国営武蔵丘陵森林公園における階段アートの取り組み」第26回 環境芸術学会

高橋綾：令和7年8月 環境芸術学会 第26回東京大会 口頭発表（2件）・作品発表 令和8年3月 前橋市まちづくり公社主催まちづくり講演会『前橋と学生20年のデザイン』講師 令和8年1月 群馬県・前橋市・群馬県都市計画協会共催『景観を活かしたまちづくりシンポジウム in 前橋』パネリスト 令和7年12月 環境芸術学会 企画コンペ「みる×つくる×あそぶ」展／企画提案／審査員（オリエ アートギャラリー／東京都 外苑前）

三宅秀和：令和8年2月 「熊本藩細川家の源氏絵」（第17回源氏絵データベース研究会／源氏物語ミュージアム特別講座）（科研基盤研究A「源氏文化ポータル構築と源氏絵の俯瞰的・創発的研究」）宇治市源氏物語ミュージアム 令和7年8月 「細川家の美術―収集・制作・移動― 附：宇和島伊達文化保存会所蔵の伏見御殿屏風について」（第4回

大名美術史研究会、科研挑戦的研究（開拓）「大名家コレクションの国際調査とデジタル集積を通じた日本美術史の地域拡張と通史接続」 令和7年6月 「茶掛けとしての雪舟画の登場—唐物と和物、細川三斎の関与」（表千家群馬県青年部講演会）

武藤大祐：令和7年12月 舞踊学会第77回大会 「上演型舞踊と対人距離—小空間における舞踊の美学」（和光大学） 令和7年6月 日本文化人類学会第59回研究大会 「ストリップに涙する身体—グローブと情動の相互作用」（筑波大学） 令和8年2月 「小沢昭一旧蔵資料にみる「日本芸能史」構想についての調査研究—芸能史叙述と「芸」「性」「差別」公開トークイベント「セクシャリティとスピリチュアリティ」（スピーカー。松山、ひみつジャナイ基地） 令和8年2月 「小沢昭一旧蔵資料にみる「日本芸能史」構想についての調査研究—芸能史叙述と「芸」「性」「差別」公開研究会「さまざまな人が引き寄せられるように集う「場」の歴史としての日本芸能史を考える」（スピーカー。松山、伊月庵） 令和7年11月 国際シンポジウム「上演文化に関する「芸術化」の国際比較研究：商品及び労働者としての演者を巡る諸問題」 “Modernization and Artification of Japanese Dance: From Geisha Party to Theatre”（スピーカー。日本大学／オンライン） 令和7年10月 「先住民族による現代的表現の国際研究：研究と政策の脱植民地化へ向けて」第2回研究会 「民俗芸能にとって「アート」とは何か—ハイブリッド・媒介・再野生化」（国立アイヌ民族博物館／オンライン）

山崎真一：令和7年8月 環境芸術学会 第26回記念大会 東京 実践女子大学 渋谷キャンパス 口頭発表 令和7年8,9月 「越後妻有みんなのお宝引っ越し大作戦！」越後妻有夏秋2025 力五山「時の回廊 - 十日町高倉博物館 -」関連のワークショップ（新潟）

【その他】

奥西麻由子：グループ展 令和7年12月 環境芸術学会企画展「みる×つくる×あそぶ」展 オリエアートギャラリー 令和7年9月 「POPん 蔵」富岡まちかどアートめぐり カフェドローム

高橋綾：グループ展 令和8年3月 「広瀬川アートV—未来をつなぐ GUNMA のデザイナー」(広瀬川河畔／群馬県前橋市) (企画代表)

藤沢桜子：共編著 『45年目のユリノキと～大学とアートのつながり～』本学錦野祭「ユリノ木物語」プロジェクト展示パンフレット、令和7（2025）年11月（特定教育・研究費）共編著者：熊迫奈緒美、須永真緒、青柳理砂、富井春来、高橋くるみ（文学研究科芸術学専攻、大学院生）

山崎真一：グループ展 令和7年12月 みる×つくる×あそぶ展 オリエアート・ギャラリー（東京） 令和7年9月 富岡まちかどアートめぐり 富岡市観光交流課主催 令和7年7月越後妻有夏秋2025 「時の回廊 - 十日町高倉博物館 -」高倉集落（新潟）

文化情報学科

【著書】

鈴木親彦：共著 『デジタルアーカイブ・ベーシックス 「メタデータ」のパースペクティブ』勉誠社 令和7年6月 共著 『デジタルアーカイブ入門 つかう・つくる・支える』勉誠社 令和7年5月 共著 『よくわかる歴史社会学』ミネルヴァ書房 令和7年4月

【論文】

- 神崎享子：共著 「言語と観光に関する国際標準化の現状」『Japio YEAR BOOK 2025』日本特許情報機構 令和7年9月
- 鈴木親彦：共著 （鈴木親彦, 齋藤真麻理, 古田亮, 曾田めぐみ, 野田麻美, 金井裕子）「IIIF Curation Platform を利用した狩野派粉本コレクションの画題整理」『じんもんこん 2025 論文集』2025 pp.55-60 令和7年12月 共著 （鈴木親彦, 山崎隆広）「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）とジャパンナレッジの共同プロジェクトを手がかりに」『出版研究』（55） pp.35-48 令和7年5月
- 俣野美咲：共著 「『働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 2024』からわかる利他的行動、居住地域に関する意識、介護の状況と影響、親の死別と経済状況（後編）」『中央調査報』No.817 令和7年11月（著者：石田浩・石田賢示・大久保将貴・俣野美咲）
- 山崎隆広：「井口一郎・鶴見俊輔・田村紀雄：日本における『コミュニケーション学』の成立と『オルタナティブ』という思想」田村紀雄著『コミュニケーション学の誕生：W.シュラム学派から『思想の科学』井口一郎へのリレー』社会評論社、2025年4月。[同書所収の解説論文]（前年記載の（4）その他（予稿集、研究ノート等）から移動、発行年変更） 「デジタルアーカイブ時代のエディトリアルとは：人文学オープンデータ共同利用センター（CODH）とジャパンナレッジの共同プロジェクトを手がかりに」『出版研究』第55号、2025年5月。[鈴木親彦との共著]

【訳書・教科書・書評等】

鈴木親彦：令和6年11月～現在 『文化資源学』編集委員 文化資源学会

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

神崎享子：令和8年1月 「Research on the Multi-Faceted Utilization of Tourism Data Using Generative AI – Possibilities for Use from Perspectives of Data Providers, Local Governments, Tour Guides, and Tourists」The 18th International conference on Knowledge

and Smart Technology (KST2026)

黒田覚：Bounded Reverse Mathematics of Linear Algebra, Logic Colloquium 2025, Vienna, July 7-11, 2025

鈴木親彦：令和7年12月 「IIIF Curation Platform を利用した狩野派粉本コレクションの画題整理」 人文科学とコンピュータ研究会シンポジウム2025 令和7年3月 「IIIF Curation Platform の活用による 画像資料の構造化」 人文学のためのテキストデータ構造化の現状と課題

細川雄一郎：令和8年2月 (国際発表)「Resolution of the Disagreement Between Similarity and Causality Analysis of Counterfactuals in Hybrid Temporal Logic: and Its Relevance to Two AI-Problems」 The 6th France-Japan Workshop on “Disagreement in Logic and Reasoning and Beyond” 令和7年11月 (国際発表)「Describing Counterfactual Fairness in Hybrid Temporal Logic: From Counterfactual Fairness to Indicative Fairnes」 International Interdisciplinary Half-Day Workshop on Explainability and Fairness in AI and Digital Environments 令和3年6月～現在 *The Uses of Argument* (Stephen E. Toulmin, 1958) 読書会主催 (隔週火曜開催)

堀畑佳宏：令和7年9月 「Weak theories of concatenation and arithmetic」 Workshop on Logic and Computation (国際学会) 令和7年8月 「数学教育の意義について」 全国算数・数学教育研究大会 令和8年3月 (予定) 数学セミナー・主催 (群馬県立女子大学) 令和8年2月 数学セミナー・主催 (群馬県立女子大学) 令和8年1月 第11回山陰 数学と基礎論研究集会・共催 (米子コンベンションセンター) 令和7年10月 数学基礎論若手の会・主催 (国立赤城青少年交流の家)

俣野美咲：令和7年11月 「3世代にわたる学歴の再生産——祖父母からの経済的資源の移転に着目して」 第98回日本社会学会大会 (共同発表：俣野美咲・石田浩) 令和7年9月 “Reproduction of Inequality across Multiple Generations through Financial Assistance,” Society for Longitudinal and Lifecourse Studies Annual Conference 2025 (Collaborative Research: Misaki Matano, Hiroshi Ishida) 令和7年8月 “Reproduction of Education Across Three Generations through Shared Lifetimes,” Research Committee 28 on Social Stratification and Mobility (RC28) of the International Sociological Association Summer Meeting 2025 (Collaborative Research: Hiroshi Ishida, Misaki Matano) 令和7年7月 “The Protective Role of Intergenerational Coresidence on Depression After Widowhood in Japan,” 2025 Research on East Asian Demography and Inequality (READI) Conference (Collaborative Research: Shingo Nitta, Misaki Matano) 令和7年6月 “Educational Investment across Multiple Generations: The Impact of Grandparental Support on Grandchildren's Educational Achievement,” Social Stratification and Mobility 2nd International Workshop (Collaborative Research: Misaki Matano, Hiroshi Ishida) 令和7年6月 “Multi-generational Transmission of Inequality

in Education,” 2025 Annual Meeting of Life Course Transitions in East Asia: Education, Employment, and Family Formation (Collaborative Research: Misaki Matano, Hiroshi Ishida) 令和7年4月 “The Effect of Parental Bereavement on Mental Health and Subsequent Recovery: Focusing on Siblings, Spouses, and Children,” Population Association of America 2025 Annual Meeting

山崎隆広：第46回日本出版学会賞受賞記念講演会「『政治の季節』／その後：1979年前後の文化、出版状況をめぐる考察」、専修大学、2025年11月14日 2026年JASPM（日本ポピュラー音楽学会）関西地区第1回例会：JASPM書評セッション・山崎隆広『音楽雑誌と政治の季節：戦後日本の言論とサブカルチャーの形成過程』に応答・討論者として登壇、大阪公立大学、2026年2月21日

尹鈺喜：令和7年10月 「韓国在住脱北者のアイデンティティと多文化政策」 第45回家族関係学部会セミナー

国際コミュニケーション学部

【著書】

神谷信廣：単著 『英語授業で学習者の誤りにどう対応するかーフィードバック研究の観点から』 大修館書店 令和7年9月 単著 「「失敗」を「学び」に変える訂正フィードバックを活用しよう！」『英語教育10月号』 大衆館書店 令和7年9月

【論文】

神谷信廣：単著 「The limited effects of visual and audio modalities on second language listening comprehension」『Language Teaching Research』 令和7年

鈴木悠：「国際海事機関における温室効果ガス排出規制の展開 と気候変動条約レジームの交錯」『法学』第89巻第4号 令和8年3月

N.スネイプ：Flores, C. and N. Snape (2026). What returnee bilinguals may teach us about language attrition, language stabilization, and individual variation. Special issue of *Linguistic Approaches to Bilingualism*, 16(1), 1-25. Flores, C. and N. Snape (2026). What returnee bilinguals continue to teach us: Embracing a dynamic and linguistically grounded perspective on bilingual language development. Commentary in *Linguistic Approaches to Bilingualism*, 16(1), 94-100. Tovar, J. and N. Snape. (2025). Reconceptualizing translanguaging amid critique. In C. Flores and N. Snape (eds.). *Translanguaging - What is it besides smoke and mirrors?* Commentary in *Linguistic Approaches to Bilingualism*.

野口和彦：単著 「進化政治学と戦争研究——何が問われるのか——」『戦略研究』第37

号 令和7年10月

日詰慎一郎：単著 「上司は Z 世代に対するコーチングをどのようにおこなうと効果的なのか—働く女子学生と女性従業員のデータ分析—」群馬県立女子大学紀要 第 47 号: 89-102 2026 年 3 月

布田朝子：単著 「ミャンマーにおける女性の金融アクセスと今後の課題」『群馬県立女子大学紀要』第 47 号、2026 年、pp. 103-115

山岡健次郎：単著 「stateless と displacement：難民移動に含まれる二つの位相」『平和研究』65 号 117-142 頁（査読あり） 令和 8 年 1 月

【訳書・教科書・書評等】

荒野侑甫：令和 7 年 Symbolic Interaction 査読 令和 7 年 Research on Language and Social Interaction 査読 令和 7 年 Discourse Processes 査読 令和 7 年 Language and Education 査読 令和 7 年 Journal of Pragmatics 査読 令和 7 年 Communication Monograph 査読 令和 7 年 Journal of Intercultural Communication Research 査読 令和 7 年 Research on Language and Intercultural Communication Research 査読

神谷信廣：令和 7 年 5 月 『TESL-EJ』 共同編集者 平成 30 年 6 月より 三省堂 高等学校英語教科書「VISTA シリーズ」編集委員

野口和彦：令和 5 年 4 月～ 戦略研究学会 編集委員会 委員

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

荒野侑甫：令和 7 年 11 月 “Embodied guidance of brush handling in Japanese calligraphy lessons” パネリスト American Anthropological Association 令和 7 年 6 月 “Embodied Guidance of the Writing Hand in Japanese Calligraphy” パネリスト International Pragmatics Association

于 蘭鳳：令和 7 年 9 月 「アジア新興国市場の新たな変化」物流研究会にて研究発表

梅田真理：令和 7 年 4 月 「Interpretation of null arguments in L3 acquisition of Japanese」 The 5th International Conference on Theoretical East Asian Psycholinguistics（共同口頭発表）

神谷信廣：2025（令和 7）年 3 月 Visual information is a double-edged sword in L2 listening comprehension and vocabulary learning. J-SLARF シンポジウム 2025. 東北大学. 単独発表.

N.スネイプ：令和 7 年 12 月 「The effect of multilingualism: Knowledge of L2-English determiner phrases through the use of L3-German.」 Second Language Teaching and Research, Taiwan 令和 7 年 7 月 「with J. Cabrelli. L2 attrition in voice onset time (VOT) in Japanese-English returnee children.」 European Second Language Association, Tromsø, Norway 令和 7 年 6 月 「with J. Cabrelli. Voice onset time (VOT)

in Japanese-English returnee children: A case of L2 attrition.] International Symposium on Bilingualism, San Sebastian, Spain 令和 7 年 6 月 「with C. Kasai, M. Ogawa, K. Ogasawara, E. Nakagawa, N. Sadato, and T. Koike. A preliminary fMRI study on L1-Japanese L2-English learners' judgements of English articles.] Japan Second Language Association 2025 学会第 25 回全国大会, Shizuoka Japan 令和 7 年 6 月 「The acquisition of determiners in L3 German: Teasing apart L1 / L2 Transfer effects and German dialectal differences.] Japan Second Language Association 2025 学会第 25 回全国大会, Shizuoka Japan

野口和彦：令和 7 年 10 月 講演「軍事力と戦争」発表者 防衛省防衛研究所 安全保障研究会

原谷直樹：令和 7 年 2 月 「制度的秩序と市場プロセス」 制度の哲学的基礎研究会

山岡健次郎：令和 7 年 9 月 「stateless と displacement: 難民保護の理論的再検討」 日本社会学理論学会第 20 回大会 令和 7 年 8 月 「『難民レジームと当事者性』合評会」 (@慶應大学) ゲストスピーカー

【その他】

野口和彦：単著 「なぜか『平和主義』の日本で注目されない暴力衰退論」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 12 月 18 日 単著 「日米同盟と日中関係のトレードオフを直視した安全保障論議」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 11 月 20 日 単著 「なぜリベラル派の対外政策は悲劇をもたらすのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 11 月 6 日 単著 「ASEAN のヘッジング戦略と対中封じ込め」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 28 日 単著 「『正しい戦争』はあるか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 23 日 単著 「米中二極世界における対中戦略と核抑止」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 21 日 単著 「なぜリアリストは国際秩序に総じて懐疑的なのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 16 日 単著 「日本の国際政治学は『輸入学問』といえるのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 6 日 単著 「何が軍事ドクトリンを変革するのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 10 月 4 日 単著 「予測の失敗は『非合理』のせいなのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 9 月 27 日 単著 「『国際関係論』は科学とみなされているか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 9 月 26 日 単著 「戦争は衰退しているのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 9 月 4 日 単著 「ヨーロッパに『ミュンヘンの教訓』という幽霊がでる—繰り返される歴史の誤用—」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 8 月 27 日 単著 「民主主義国はどんな犠牲にも耐えるのか—チャーチル政権のナチス・ドイツへの抵抗の虚実—」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 8 月 22 日 単著 「ウクライナ戦争はどのように終わるのか—戦争終結研究から考える—」アゴラ言論プラットフォーム 令和 7 年 8 月 20 日 単著 「美しい理論は正しいのか—ウォルツ

の国際政治理論再考一」 アゴラ言論プラットフォーム 令和7年8月6日 単著 「戦略研究とクラウドゼヴィッツ」 アゴラ言論プラットフォーム 令和7年8月2日 単著 「国際関係論は冷戦の終結をどう説明するのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年7月18日 単著 「科学としての戦略を擁護する」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年7月9日 単著 「『宥和政策』は戦争を防げるのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年7月3日 単著 「日本の防衛政策に科学はあるのか」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年6月12日 単著 「ウクライナ危機において『戦略の論理』に背を向けた米欧」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年6月7日 単著 「人間の認知の歪みが引き起こす戦争」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年6月4日 単著 「『歴史の学べ!』の落とし穴」アゴラ言論プラットフォーム 令和7年5月31日 単著 「なぜプーチンはウクライナ侵攻を決断したのか：政治心理学からのアプローチ」 アゴラ言論プラットフォーム 令和7年5月26日

布田朝子：2026年3月 布田朝子 グローバル債務研究会（於：早稲田大学）

群馬学センター・地域日本語教育センター・キャリア支援センター

【著書】

築瀬大輔：共著 『関東平野の文化的景観と防災文化財〈シリーズ・群馬の災害文化II〉（地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.16）』（群馬県立女子大学群馬学センター 2026年3月） 共著 『上野介源頼信とその時代 ―「亡弊史観」を見直す―（シリーズ・時代の画期を問い直すII）（地域学ブックレット 群馬の歴史と文化遺産 Vol.15）』（群馬県立女子大学群馬学センター 2026年3月）

【論文】

大川友美：単著 「非認知能力と人生100年時代の社会人基礎力を伸ばし鍛えるキャリア形成支援―初年次教育科目「キャリアデザインI」実践報告―」 『群馬県立女子大学紀要』第47号 令和8年2月

【訳書・教科書・書評等】

築瀬大輔：単著 「八幡荘と河内源氏」 （『ぐんま地域文化』第65号 2025年10月） 令和4年～現在 『群馬学研究・KURUMA』（群馬県立女子大学群馬学センター）編集委員

【学会・シンポジウム・講演等の発表】

築瀬大輔：令和7年10月25日 「群馬県における大学・行政・史料ネットの連携による

地域資料保全の取り組み」(令和6年度科学研究費助成事業・第8回東アジア史料研究編纂機関国際学術会議「アジア歴史資料の保全と学術資源化」/研究代表者:杉森玲子)
(東京大学史料編纂所) 令和8年3月27日 パネルディスカッション「文書館所蔵史料の魅力と活用」(文書館シンポジウム「お宝史料との出会い方～文書館所蔵史料の魅力と活用～」)(主催:群馬県立文書館 会場:群馬県生涯学習センター) 令和8年3月22日 「上野国における1590年一民衆はどのように北条氏の戦争に協力したのか」
(シンポジウム「両毛地域における天正18(1590)年」)(主催:足利市教育委員会 会場:マルニ額縁生涯学習センター) 令和8年3月15日 「荘園遺って何だろう」(第3回伊勢崎市史編さんシンポジウム「それいけ!ISESAKI荘園探偵団 女堀・淵名荘遺跡プロジェクト」)(主催:伊勢崎市教育委員会 会場:赤堀芸術文化プラザ) 令和7年12月6日 「地域まるごと文化財-文化財保存活用地域計画に期待される役割-」
(藤岡市文化財保存活用地域計画認定記念シンポジウム「藤岡の歴史文化とまちづくり」)(主催:藤岡市教育委員会 会場:ふじまるホール) 令和7年9月20日 『対決の東国史』完結記念シンポジウム「強調と対立の東国史」パネルディスカッション登壇(主催:國學院大學文学部高橋英樹研究室主催 会場:國學院大學) 令和7年9月13日 「中世足利の魅力と博物館の可能性」(シンポジウム「山姥切国広を生んだ足利の歴史を活かすために」)(主催:足利歴史ミュージアム設立推進協議会・足利女性勉強会 会場:足利商工会議所委友愛会館) 令和7年12月20日 第48回群馬学連続シンポジウム「災害史を“する”人々」〈シリーズ・群馬の災害文化Ⅲ〉(主催・会場:群馬県立女子大学) 令和7年10月18日 第1回ぐんま資料保全セミナー(主催:群馬県立女子大学・玉村町・群馬歴史資料継承ネットワーク 会場:玉村町文化財シェルター) 令和7年8月30・31日 第99回民衆思想研究会(主催:同実行委員会・群馬県立女子大学 会場:群馬県立女子大学) 令和7年7月12日 第47回群馬学連続シンポジウム「学校様の時代一村や町の近世・近代一」〈シリーズ・地域史の面目を問い直すⅢ〉(主催・会場:群馬県立女子大学)